

平成24(2012)年10月27日(土)

『脊(背)振の山岳信仰』資料

日本山岳修験会顧問 長野 覺

(資料印刷・福岡市 天印堂)

はじめに

近代文明は豊かな物質文明をもたらしたが、その歪として生態系の連鎖を破壊しかねない資源の濫獲や環境汚染などを生じ、人心の荒廃を招来している。現在の世界総人口は70億人に達し、貧富の差拡大や、宗教・民族の対立などが国際的な問題となっている。しかし、日本の山岳信仰は多様な宗教を習合し融和させている。

日本国土は四面環海の山国・島国であり、山を視界に収めない生活空間は存在しない。日本国土面積の4分の3は山地・丘陵であり、平野面積は4分の1に過ぎない。その狭い平野部に全人口の80%が集中し、生産・流通・消費のスムーズな循環は、気象条件や災害に対して極めて脆弱である。一方また、広域の山間部は過疎化に伴う住民の高齢と孤独化が大きな社会問題となっており、都市と山村は遊離している。

山は、河川の水源であり、つい最近までは薪・木炭という、人間生活の根幹である火と水の供給母体として貴重な存在を認識し感謝されたが、現在は殆ど忘れ去られ、却って交通の障害とされている。

翻って福岡市の中でも旧早良郡(図1)は、殊のほか海と山と、それを結ぶ河川や流域の沃野に恵まれている。しかし人々は、福岡(早良)平野と博多湾・玄界灘を前面とし、背振山を背後としていることは、山名に筑前側は「背」を使用していることで判る。それに対して肥前側は「脊」を用いることに先ず注目し、背(脊)振山の発信する山岳信仰の意義や、山と平野の交流する風土の中に、早良地方の活力の知恵が秘められていることを考えてみたい。

1.山岳信仰の成り立ち(図2)

原始的信仰+神道+神仙思想(道教)+仏教=修験道

2.修験道の峰入(入峯)による十界修行と脊(背)振山

(図1.表1.資料1)

3.現代の峰入—NHK.TV“ふるさとの伝承：山伏が峰々を行く”

(修験春風会の英彦山金剛界入峯)

4.脊(背)振山の現代的存在感

①癒しの山 { 天上界の自然—地形・景観・動植物と四季の変化
日本六弁天 { 山 岳＝背振山・弥山(大峯山)・金華山
海・湖＝巖島・竹生島・江ノ島

②山岳信仰の文化遺産—社寺、祭礼、石造物、遺跡、古文書 etc.

③心身の錬成による六感(眼耳鼻舌身意)のリフレッシュ(生気を与える)
—期間、コースを短縮し、行法を簡略化して復活している英彦山・求菩提山・宝満山の例—

④山と山里の食文化の再認識と育成—山葵栽培やブランド米 etc.
安曇野型と奥多摩型

例、英彦山の柚子ごしょう。求菩提山のもろみ漬(求菩提漬)
大峯山の陀羅尼助と水(コーヒー)。相模大山の豆腐料理。羽黒山の山伏料理 etc.

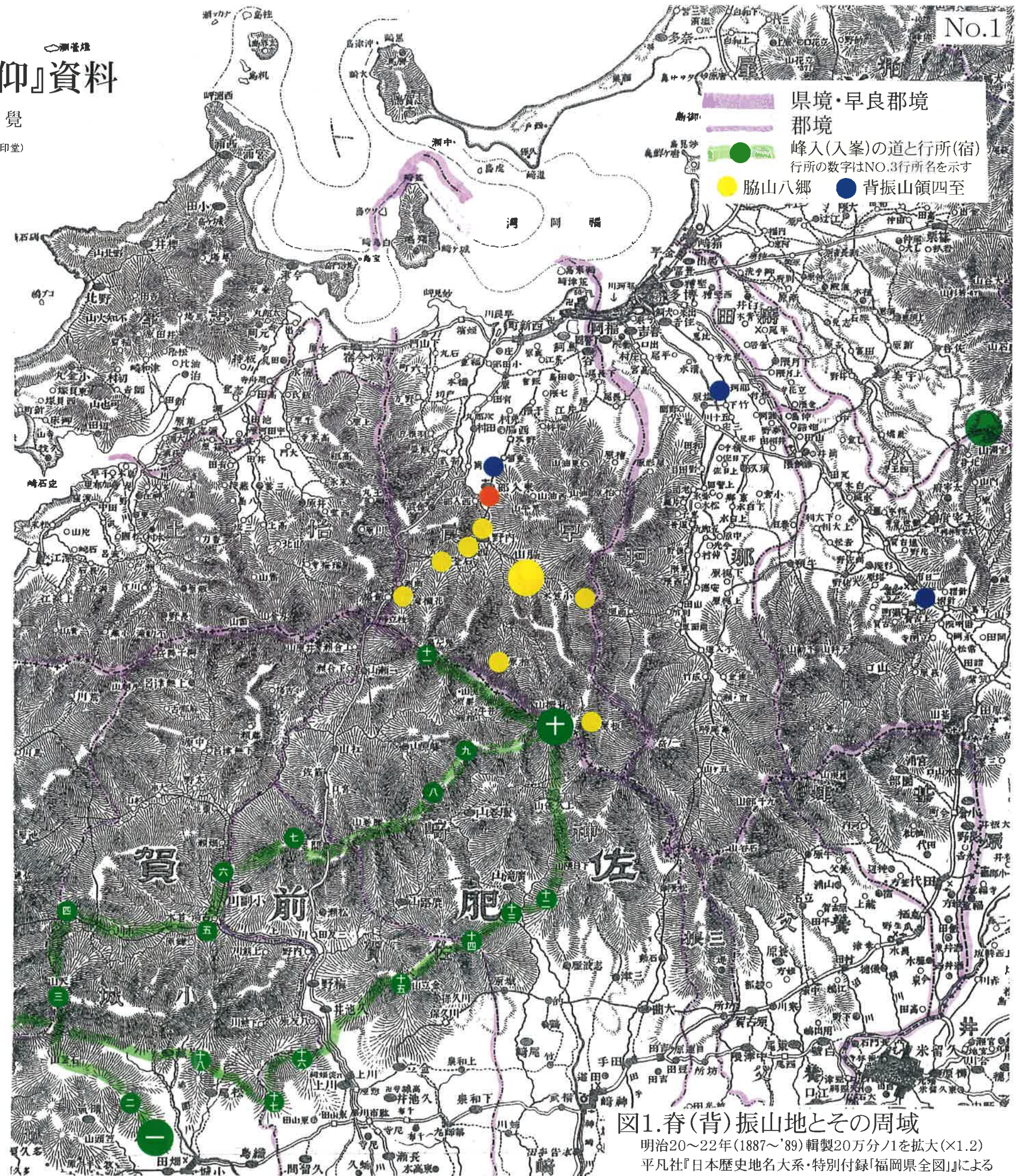


図1.脊(背)振山地とその周域

明治20~22年(1887~'89)輯製20万分ノ1を拡大($\times 1.2$)

平凡社『日本歴史地名大系・特別付録「福岡県全図」』による

所在地	佐賀県神埼市（東門寺） 神埼郡吉野ヶ里町（霊仙寺・積翠寺）	旧国名	肥前
標高（遺跡標高）	1,054m		
寺社	（現存）修学院（下宮跡地）・乙護法堂（中宮跡地）・脊振神社（上宮、吉野ヶ里町田中にも社殿あり）		
遺跡名	脊振山経塚・東門寺跡・霊仙寺跡		
主な遺構	＜東門寺・霊仙寺＞平坦面・土塁・経塚・集石・墓地・基壇状遺構 ＜霊仙寺＞礎石建物（近世か）		
主な遺物	経筒・瓦経・青磁・白磁・国産陶磁器・土師器・灰釉陶器・滑石製仏像・滑石製品・石塔（薩摩塔2基）		
存続時期（最盛期）	10世紀～19世紀（12世紀～13世紀）		
地誌・縁起	『筑前国統風土記拾遺』『肥前古跡縁起』『扶桑略記』		
参考文献	川頭芳雄『背振山と栄西』 波佐場義隆 1977「背振山修験の歴史と宗教活動」『英彦山と九州の修験道』 吉田扶希子 2002「脊振山信仰の一考察」『西南学院大学文学研究論集』21 吉良国光 2010「宗教領主脊振山の成立と衰退」『研究紀要』第47巻大分県立芸術文化短期大学 東脊振村教育委員会 1980『霊仙寺跡』 脊振村教育委員会 1988『脊振山経塚群』		
縁起・伝承	和銅年中、もしくは延長3年（925）に湛誉上人によって開山。弘法大師が、渡唐の際に祈禱し、帰朝ののち山上に49院を建てたと伝えられるほか、伝教大師も渡唐の後、自ら薬師仏を彫り、堂舎を建てたといわれる。また、修験道の開祖・役行者、康保3年（966）に書写山円教寺を開いたことでも有名な性空上人、宋から初めて茶を伝えた栄西なども背振山との関わりで知られる。 上宮には弁財天社、東門寺、中宮には霊仙寺、下宮には積翠寺がおかれ、最盛期には千坊（脊振千坊）があったと言われる。史料上確認される宗教施設としては宝殿、中宝殿、経所、大講堂、多宝塔、鐘樓、権現堂、九間拝殿、乙護法所、乙護法宝殿、三郎護法宝殿、箕護法宝殿、東門寺政所がある。坊名も多く残る。所領は500石あったといわれ、肥前では神埼庄、三根郡、河副庄、養父郡に点在、筑前側では早良郡脇山が所領となっている。小早川秀秋のときに領地は没収され、衰退したとされる。15世紀後半に所領の分割支配が行われるようになって衰退したという見方もある。明治維新になって最後の10坊が返還、廃寺となる。 また、筑前側の早良郡脇山の池田や、肥前神埼郡小川内周辺にも脊振山関連の坊跡が置かれていたとされるが、詳細は不明である。		
概要	＜上宮・東門寺＞山頂部の南側尾根上に経塚群が見つかり、「脊振山経塚群」として知られる。経塚群の南東側の谷部に平坦面が、参道を基軸にして20ほど展開する。尾根上には基壇状遺構も見られる。 ＜中宮・霊仙寺＞山裾から中腹にかけて坊跡の平坦面が造られる。平坦面の大半は中世で廃絶するものであるが、立派な石垣を備えたものは近世以降のもので、「水上坊」など坊の所在地も伝承によりほぼ判明している。平坦面群のほぼ中央に位置する乙護法堂（現存する堂舎は幕末のもの）の背後の細長い墳丘上の盛土内から、発掘調査により経塚が12基見つかり、中世における中心部分であったと推測される。 ＜下宮・積翠寺＞下宮跡と伝えられる場所は現在、修学院と熊野神社が建っている。修学院は下宮積翠寺の流れをくむ寺院で、脊振山の法灯を唯一今に伝える所となっている。修学院が所蔵する文書は、中近世の脊振山の活動を知る上で重要な資料となっている。		

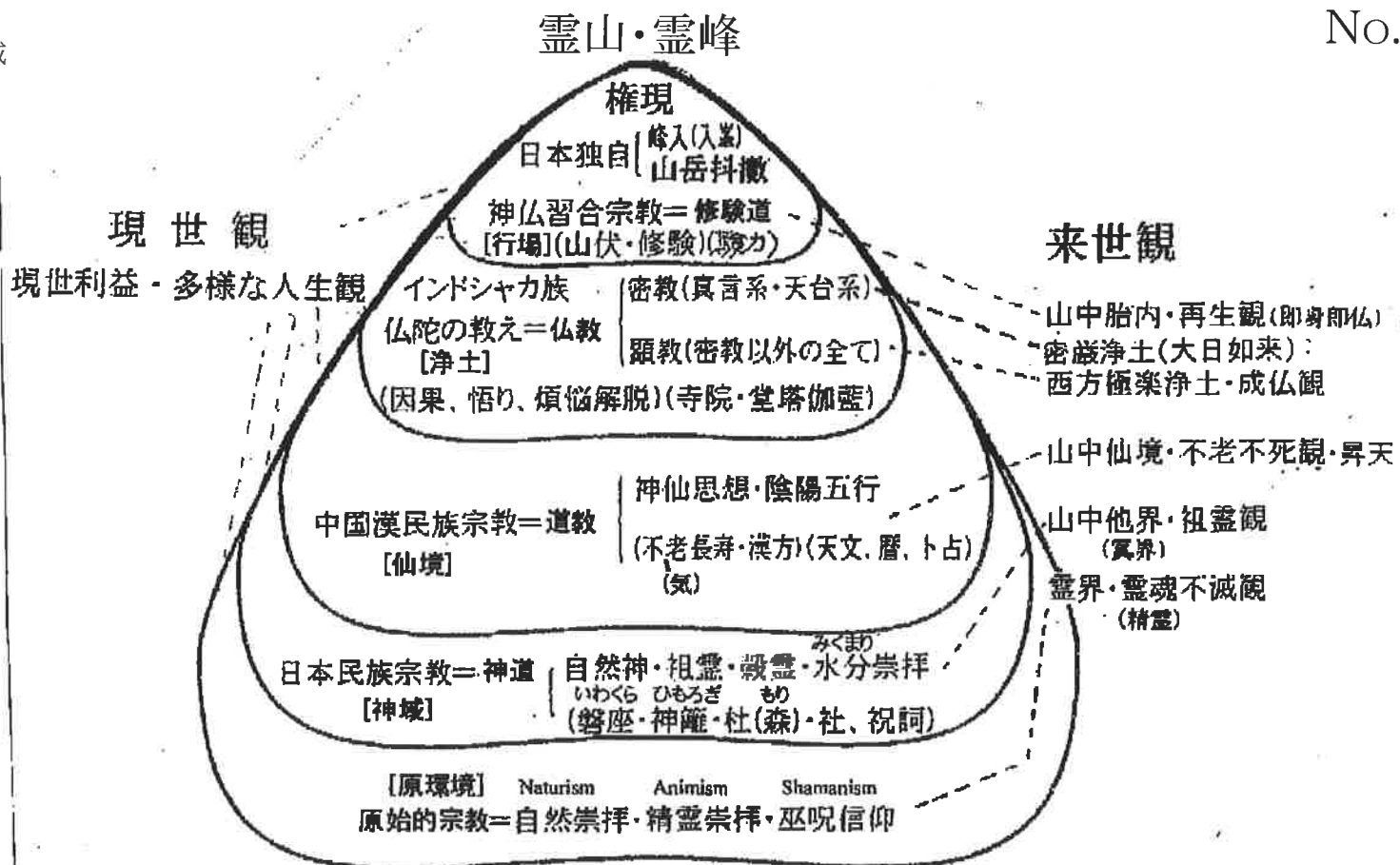


図2 諸信仰を習合した山岳信仰の構造

表1 峰入の十界修行

十界		彦山：1525年 ^{*1}	大峰山：現在 ^{*1}	羽黒山：現在 ^{*2}
四聖界（悟界）	10. 仏	正灌頂 ^{金打}	自然と一致し仏心がわき出る	再生：密印灌頂 ^{金打}
	9. 菩薩	代受苦	奉仕行：入峰中はお互いに助けあう	（大先達法話）
	8. 縁覚	着頭襟	沈思行：峰吹く風も仏の 説法と自ら知る	旧は月山虚空蔵堂（三ノ宿）
	7. 声聞	比丘形	聞法行：先達に従って法を聞く	三鉢沢（四十八川越え）
六道迷界	6. 天上	延年（馴子）	歓喜行：美しい山岳風景を楽しむ	鳴子（三ノ宿・ヤーホー）
	5. 人間	懺悔 ^{金打}	抖擻行：六根清浄を唱えつつ登る	大柴燈護摩（六根懺悔） ^{金打}
	4. 修羅	相撲	精進行：人に遅れないように頑張る	天狗相撲（二ノ宿）
	3. 畜生	水断	劳作行：荷物の重さをいとわない	（水使用制限）
	2. 餓鬼	穀断	知足行：空腹や喉のかわきに耐える	断食（三昼夜） ^{金打}
	1. 地獄	業秤 ^{金打}	忍苦行：寒暑や風雨について登る	南蛮いぶし（一ノ宿・荒沢寺）

*1「入峰の契」總本山聖護院門跡。「大峰山登拝の心得」奈良県天川村洞川観光協会など
*2 羽黒山修験本宗「秋峰」の修行体験による（1984）。鈴木学術財団（1978）
*3「三峰相承法則密記」阿吸房即傳、大永5年（1525）。『増補改訂日本大蔵経第94巻』

肥前中尾山峰中略縁起並地銘
夫レ国峰ト云ウハ胎蔵金剛兩部曼荼羅ノ灌頂道場也 高祖役行者 葛城金峰ノ寒岩ニ住ウコト三十余霜 自身ノ如來
ニ照見シテ不變不動ノ心地ニ到リ 笑面山滝屈ニ於テ親シク電樹大聖之印可ヲ承ケ 無相三密ノ知見ニ依テ開關シ玉
ウ金峯顯野葛城等ノ峯ニ准ズ 往昔 神功皇后之御宇 蒙古ヲ逐爵シ玉ウニ其ノ靈魂疫病神ト成リテ惡病流行シ衆生
ヲ悩亂シ 或ハ蝗虫ト成リテ五穀ヲ蝕枯スルコト累年止マズ 就中 九国ニ島肥筑之間甚敷ク万民愁苦憂惱スルコト
切也

于時 牛尾山別当中興 華山院第二ノ王子権大納言家忠卿ノ孫琳海法親王 勅定ヲ受ケ 肥筑之間ニ於テ大峰ヲ開闢
シ國中ノ山伏ヲ引卒シ而大部大灌頂之秘藏ヲ修行ス 其ノ法力ニ依ツテガ故ニ鬼難作ニ退キ邪氣速カニ消散シテ五穀豊
饒万民安泰スルコトヲ得タリ 其ノ靈場ト云ウハ牛尾山 背振山 高野嶽 金立山 天山 太良嶽 作礼山 阿去山
ノ八峰法華八軸ヲ表ワス 廿八箇之行所ハ金文廿八品ヲ表ワス 都一百八十箇之勤行所有リ
（略）

夫レ入峰修念ノ相ヲ謂ハバ身心猛勇 精進シテ殺ヲ断ジ眠リヲ除キ 雨霜雪ヲ厭ワズ 薪ヲ採リ水ヲ汲ミ 岩石ヲ徑
テ峻山ニ登リ拾身ニ修行ス 因果ヲ味メズ菩提ノ彼岸ニ到ランコトヲ要ス 其ノ心虚空閑林ニシテ其ノ位所ヲ求メ
ズ 本来実相ナレバ人我が境ニ住セズ 捨ツル可キ身モ無ク求ムベキ菩提モナシ 故ニ捨身求菩提ト謂ウ 是レ我が
宗ノ要道ニシテ行者ノミ之ヲ知ル ロヲ以テモ言ウ可カラズ カヲ以テモ窮ムベク尽ス可カラザルノ義也
高祖大師ノ曰ウ 風ハ樹頭ニ吟シ波ハ沙石ヲ濤ツ是皆修験ノ依経也 手ヲ拳ゲ足ヲ卸セバ印契 唇舌ヲ動カセバ密言
也ト 是レ行者ノ知見ニシテ衆生濟度ノ法規 一タビ此ノ峯ニ徑歴スレバ無始ノ煩惱ヲ滅除シ 速カニ無上道ニ疾
シ

是ヲ以テ天下泰平國家安鎮 風虫軋除百穀成就 怨敵退散万民豊樂之祈禱ハ峰中最極之法要ニ過グル無シ
委シクハ悉ク峰中灌頂之記ニ出ズ 故ニ其ノ要ヲ撮リテ繁キヲ略スルノミ
廿八箇行所
○第一牛尾山 峯中記ニ於テ序品峰ト名ヅク 此ノ山胎蔵金合行蘇悉地也 背振山ヨリ太良嶽ニ至リテ一峰トシテ離ル
ルコト無ク首尾相続ノ山勢連ル 是レ則チ東ハ胎界 西ハ金界也 独リ牛峯其ノ中央ニ安直ス 山勢小ナリト雖モ八
ツノ峯有リテ四方四隅ニ安住ス 則チ此ノ山中ノ大宿ニ入リ一七日或ハ三日逗留シ 弁備手折大柴灯大懺悔ノ護摩
供アリ 信心ノ聲ヲシテ騰ヲ相承セシム
此ノ山中 地蔵ノ辻ヨリ畜生受苦ノ表相ヲ示ス 其ノ自チ千品ニテ大小夾雜セリ互ニ相啖食ス 諸根不具アリ 塵除
無足輪轉腹行ノ類イ心有レドモ東西ヲ知ラズ 比レ則チ癡闇罪ニ依テ此ノ報ヲ得 本覺最モ遠ク罪障懺悔之事 軌則
深キ事 秘スル事悉ク本記ニ出ズ矣
所謂ル駈入リトハ悉達ノ入山ニ比シ 駈出シトハ寂尊出山ノ想也
○第二丹坂山 大日堂前ニ方便品ヲ誦ス
○第三天山岳 此ノ山愛宕ノ辻ニテ探燈修行衆僧警噓品ヲ誦ス 勤行所数多アリ
○第四金剛山 信解品 此ノ山 清水ノ山中西谷ノ内 此ノ山ニ於テ一七日断食其ノ外数多之行法アリ 慳貪ノ業因
ヲ解脱シ餓鬼ノ報ヲ除除セシム
○第五古湯山 藥草噓品 大権現店前ニ通夜ス 此ノ所十三箇ノ勤行所アリ
○第六須田川 授記品 此ノ山中ニ密事アリ
○第七高野嶽 化城噓品 此ノ山ヨリ三瀬ニ到ル 新度者ニ金剛杖ヲ執ラシム 順逆道操ノ差別ニ依リテ場所異ル
○第八毒蛇谷 五百弟子授記品 此ノ所ヨリ間モ無ク受苦ノ相ヲ示現シテ極熱叫喚ノ悲シミ黒繩衆合ノ患ヘ刀山劍樹
ノ恐レ 是レ則チ瞋恚煩惱殺生ノ由來也 大先達ニ會ハズ何ゾ此ノ受生ノ衆生ヲ度脱セント云ウ 本記ニ出ズ
○第九驚蟄 受學無學人記品 此ノ山中ヨリ修羅ノ苦因 瞋恚罪業ヲ示シテ懺悔セシム 高障子 獵師ガ岩 鬼ガ鼻
等アリ 何レモ行所也
○第十背振山 法師品 此ノ山深行所数多アリ 則チ胎蔵ノ山是也 護摩谷ニ於テ探燈修行ス 是ヨリ人道ノ果報ヲ
示ス

- 第十一鬼ガ鼻 見宝伍塔品ヲ誦誦ス
- 第十二仁比山 提婆品
- 第十三菩提山 勤持品 是ヨリ峯通リ千年岳ニ至ル 天狗岩 胎内巖 出生窟等アリ
- 第十四千年嶽 安樂行品 是ヨリ女石妙樂寺 大日堂 木崎觀音何レモ勤行所也
- 第十五金立山 從地涌出品 此ノ山密行アリ 一夜或ハ三夜投宿 奥ノ院ニ於テ探燈修行
- 第十六水上山 壽里品 不動尊前ニテ花水供修行
- 第十七今山釈迦堂 分別功德品 宿場ハ男女大明神ノ社境ノ内或ハ断食所ト云ウ 権現ノ尾 五百羅漢 石仏ノ辻
- 第十八曼荼羅 湯峯藥師 平等院ノ地蔵何レモ勤行所ナリ 此ノ所ヨリ天上道トス 委クハ本記ニ出ズ
- 第十九梅嶽山 隨喜功德品 勤行所数多 十六羅漢石アリ 唐津領作礼嶽ノ代地
- 第二十經嶽 法師品 是ヨリ声聞道トス
- 第二十一黑髮山 常不經菩薩品 白河半田ノ間ニ投宿 緣覺位ニ至ル
- 第二十二不動山 如來神力品 勤行所数多
- 第二十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第二十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第三十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第四十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第五十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第六十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第七十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第八十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十一太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十二太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十三太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十四太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十五太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十六太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十七太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十八太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第九十九太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル
- 第一百太良嶽 噓品 此ノ山ヲ金剛ノ峯トス 行所数多 山ノ半腹ヲ那伽山ト名ヅク 此ノ所ヨリ菩提地ニ至ル

資料.2 道教の影響を受けた修験道の「九字之大事」(羽黒山)

歸兵者 諸君 在烈 前

九字之大事

護身法 如常

内縛印

外縛印

劍印

索印

内獅子印

外獅子印

寶印

目輪印

行々々々

九

歸兵者皆陳烈在前

「九字」は道教教典の「抱朴子」(4世紀)に収載された、山に入る時の呪法が修験道に導入され、災害を払い、勝利を祈願する修法の一つとなった。写真は羽黒山修験本宗の秋葉で新客(初参加の山伏)に授けられたもの。(1984 撮)



図.3 現存最古の役行者と前鬼・後鬼像
(山梨県 富士宮市 富士山修験道本宗)
役行者と修験道の世界
1999年9月10日 撮影＝大塚市立美術館
発行＝毎日新聞社

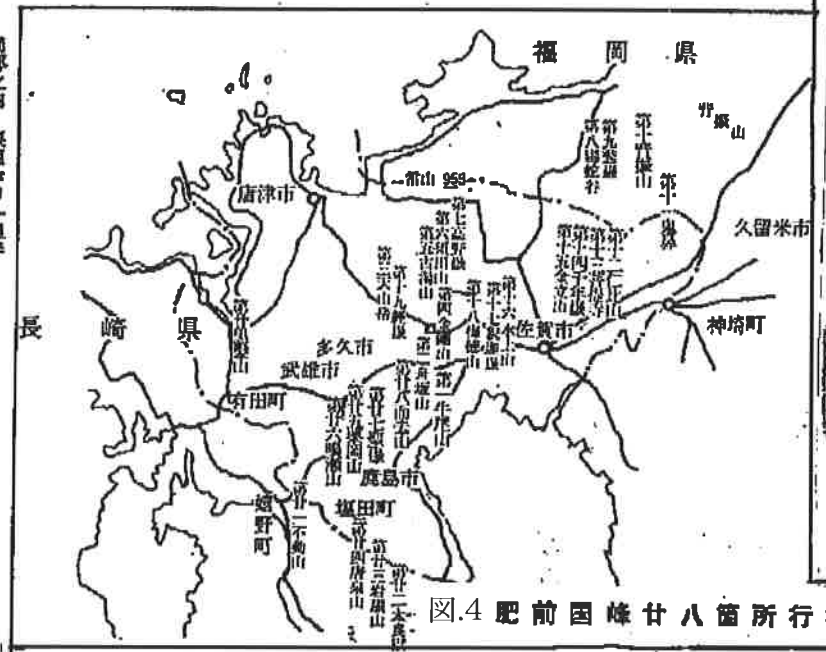


図.4 肥前国峰廿八箇所行場

以上 国峯ノ両界地銘大図スノ如シ
右之外 数多ノ行所委シクハ本記ニ出ズ